

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果分析と改善方途

全国の中学校3年生(9年生)と小学6年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」で明らかになった本校の学力の傾向、生活習慣や学習環境に関する意識についてお知らせします。また、北学園で学力向上に向けての改善方策をまとめました。

◆学力に関する調査の結果から

		特に身に付いている内容	課題のある内容
国語	6年	・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと	・自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること ・文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つける
	9年	・目的に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確に表した説明を選択すること	・自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること ※記述式の問題形式
算数・数学	6年	・棒グラフから、項目間の関係を読み取ること ・「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すこと	・分数の加法について、数や言葉を用いて記述すること⇒算数の原理・原則に則った説明に課題 ・目的に応じて適切なグラフを選択して、その理由を言葉や数を用いて記述すること
	9年	・グラフから必要な情報を読み取ること ・一次関数の変化の割合を基に、xの増加量に対するyの増加量を求めること	・数学的な表現を用いて説明すること ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる ※記述式の無回答率が高い

◆生活習慣や学習環境に関する質問紙の結果から

＊「学校に行くのは楽しいと思うか。」 **学校の楽しさ**

前93.7%、後95.3%の児童生徒が“学校に行くのは楽しい”と回答しています。これらは、「自分には、よいところがあると思いますか」(前92.8%、後93.3%)、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」(前98.2%、後98.1%)という回答にも反映されているように、児童生徒はある程度高い水準で自己肯定感をもっていることが伺えます。これに慢心することなく、児童生徒が学習面でも自信をもてるよう、授業を充実させていきたいです。

＊「将来の夢や目標をもっているか。」 **夢や希望**

前86.4%、後65.8%の児童が“夢や目標をもっている”と回答しました。発達段階に応じて現実的なことが見えてきたり、自分の将来について深く考え始めたりします。そのような中で、9年間の発達段階に応じた総合的な学習の時間や進路に関わる学習を充実させる必要があります。自分の意欲や適性などを理解し、自分の将来に向けて前向きに考え、切り拓いていけるような進路学習を進めていきます。

＊「〇〇の授業は好きか。」「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つか」

授業への興味・関心や活用

各授業についての興味・関心や活用についての質問	前期 課程	後期 課程
国語の勉強は好きですか。	63%	59%
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	96%	93%
算数(数学)の勉強は好きですか。	75%	66%
算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	96%	80%
理科の勉強は好きですか。	85%	73%
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	91%	76%

学習していることが将来に役立つことは理解しつつも、その教科を好きでなかったり、苦手としたりしている児童生徒は少なくないことが分かります。北学園では前期課程でも高学年は教科担任制を用いており、より専門性の高い授業を行っています。引き続き、日常生活と学習内容をつなぐ教材研究と実践を行いつつ、魅力あふれる授業づくりを推進していく必要があります。

◆今後の改善方策

- ＊児童生徒が学校や教師に対して安心感をもって学校生活を送っている中で、引き続き、「人権について考える日」や「いじめについて考える日」において、自分たちの身近な人権問題や日常で起こりうるいじめについて自分事として考える機会をつくり、一人一人が安心して楽しく学校で過ごし、学べる場をつくろうとする意欲や態度を育んでいきます。
- ＊異学年交流を通して上級生が下級生に頼られたり、感謝されたりすることによって自分のよさに気づき、自己肯定感を高めていくような営みを設けていきます。
- ＊一人一人の分からなさや共感できる学級の風土の醸成に努めていきます。
- ＊自分の考えを表現する力を伸ばすため、「アウトプットする場」を設けていきます。班や小集団での活動を位置付け、自分の考えと根拠を明らかにした“聴き合う活動”と“書く活動”を通して、自分の思いや考えを効果的にまとめたり、相手に伝わるように表現したりする力を伸ばしていきます。また、算数・数学では、問題解決するための根拠を明らかにできるよう、普段の授業において、解だけでなく答えを導くその過程を大切に、探究的に粘り強く取り組む力を伸ばしていきます。
- ＊どの教科の授業においても、見方・考え方を働かせるようなＩＣＴ機器等の活用を通して、基礎的な知識・技能を獲得できるように取り組みます。さらに家庭学習においてもＩＣＴ機器等を活用して基礎・基本の定着を図る指導をしていきます。
- ＊無回答を減らしていくため、あきらめずに粘り強く取り組む姿勢を様々な教育活動を通して養っていくことや、児童生徒が得た達成感や充実感を確かなものとして実感でき、今後に生かしていけるような教師の指導・援助を行っていきます。